

ひょうごの遺跡

平成6年5月1日発行
兵庫県教育委員会
埋蔵文化財調査事務所
神戸市兵庫区荒田町2-1-5
☎652 TEL078-531-7011
FAX078-531-7014

特集・古代の芸術

原始絵画の傑作

—— 出石郡出石町袴狭^{はかざ}遺跡 ——

出石町の袴狭遺跡で、線刻絵画のある箱形木製品が出土しました。

この箱形木製品は、古墳時代と考えられる水田に流れ込んだ状況で出土しており、3枚の杉板が重なって見つかりました。

絵は2枚の長側板に描かれています。1枚にはサケ・シカ・サメが、もう1枚にはカツオとサメが鋭い刃物で彫ってありました。また、長方形を何重にも重ねたような幾何学文様や平行線なども細い線で描かれていました。

これらの絵のうち、特にサケとカツオは、ひれや横縞などそれぞれの特徴がよくとらえられており、極めて写實的に表現されています。弥生時代や古墳時代の出土品に絵画が描かれること自体は決してめずらしいことではありませんが、これほど写實的で躍動感にあふれた絵は、全国的にみても例がありません。この木製品に描かれた絵画はこれまで抱いていた当時の絵画に対する考えを大きく変えるもので、我が国の絵画史上極めて画期的な発見です。

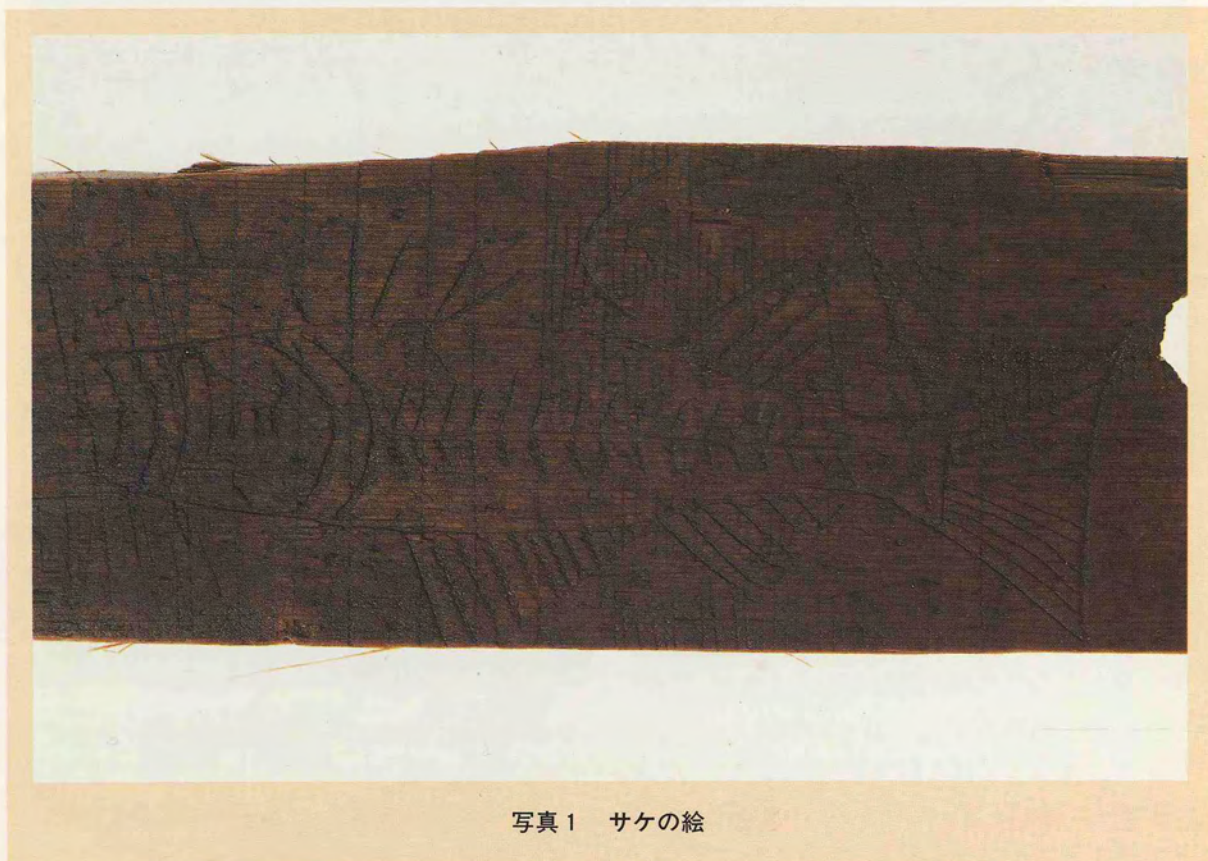
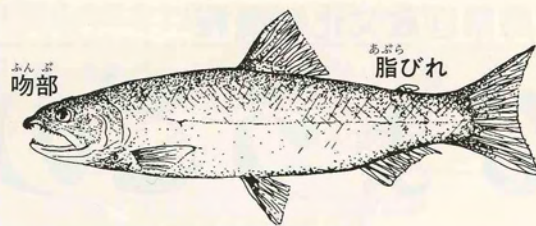


写真1 サケの絵

サケの絵 (写真1)

もっとも大きく描かれたこの魚の絵は、サケです。サケは成長すると、産卵のために生まれた母川に遡上しますが、この時期のオスは「はな曲がりジャケ」と呼ばれるように、^{ふんぶ}吻部が肥大し、大きく湾曲するようになります。また、サケ科の魚には背びれと尾びれの間に^{あぶら}脂びれと呼ばれる小さなひれがあるのが特徴ですが、これも産卵期になると大きく目立つようになります。この絵にはそうしたサケの特徴がよくとらえられています。ただ、背びれだけはトゲがとびだしたように表現されています。

この絵の大きな特徴の一つに、体部中央の横線から上下に20対あまりの短線を彫り、背骨状の表現がされていることがあげられます。この



ように本来見えないはずのものを透視して描く表現法は「レントゲン画法」と呼ばれるもので、日本の原始絵画にもわずかながらみとめられるものです。

また、頭部には目が表現されているのがわかります。縦に並んだ4本の短い線の上端をつなぐように1本の細い線が引かれています。下端にもう1本線があれば目が完成するのですが、忘れてしまったのでしょうか。



写真2 シカの絵

シカの絵 (写真2)

頭には鋭い角が2本しっかりと表現されています。耳と尾を深く彫って表現していることや、か細い足、鋭さに欠ける線などは他の動物画とはやや趣を異にしています。

原始絵画では、シカが最も多く描かれた動物で、銅鐸の絵画をみても100頭以上を数え、2位以下を大きく引き離しています。原始絵画にみるシカの絵には、真横から見た体に足を4本、耳と角を二つずつ描く特徴がありますが、このシカの絵も同様です。

シカと重なって描かれたサメの尾びれの一部分が削られており、あとからシカを描いたことがわかります。彫り手も違うのかもしれません。



〔参考〕 大垣内遺跡のシカ (弥生時代中期、西脇市)

高杯の脚部に描かれたシカ。三角頭に四角い胴体を線で表現している。弥生時代のものとしては最もいいねいな部類である。



写真3 シュモクザメの絵

シュモクザメの絵（写真3）

サメはシカの尻部と重なって1尾、この後方に2尾、裏面に1尾が彫られています。

傘状に開いた頭はシュモクザメの特徴をとらえたものと考えられます。背びれと胸びれの位置関係や、切り立つようなひれの表現にも、サメの特徴がよく現れています。

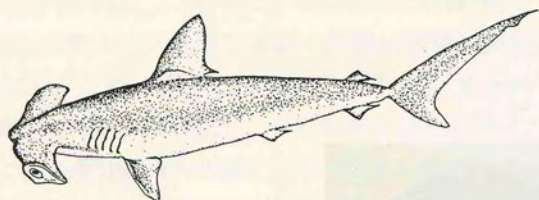


写真4 カツオの絵

カツオの絵（写真4）

海面に向かって今にも跳び出さんばかりの躍動感にあふれた絵です。流線型の魚体には4条の横線があり、縞模様を表現しています。カツオの左側にもサメの尾部と背びれが見えています。



写真5 組み立てた状況

箱形木製品に描かれた動物は、すべて古代の人々にとって重要なものばかりです。シカは重要な食料資源であるために、画題として最も頻繁に描かれた動物です。「延喜式」という平安時代の法令集によれば、サケ・カツオ・サメは都へ租税として納められていた特産物で、但馬国は「生サケ」を内裏へ直進しています。また、平城京跡から出土した木簡にもこれらの魚の名前はよくみられます。カツオやサメには暖かい海の魚というイメージを抱きますが、出雲神話の「因幡の白兎」にみるように、日本海にもサメ（ワニ）は多く、カツオも水揚げされますから、これらの動物はかつては但馬の人々の生活と切り離せない重要なものだったといえます。

出土した3枚の杉板をよく観察すると、木釘で

留めた跡があり、組み合わせると長さ約54cm、幅約13cm、高さ約9cmのやや上広がり箱形になることがわかりました。みつかったのは底板と2枚の長側板で、蓋板と小口板はありませんでしたが、これらを木釘で留めた跡が残っていました。小口板は底板と側板の内面に溝を彫って、そこにはめ込むようになっており、両側板とも中央付近に直径2cmほどの孔がけられていました。これらを総合すると、この箱形木製品は、丸い穴を開けた蓋の開かない箱ということになります。

この箱形木製品は、古代の「琴」の共鳴箱や、出雲大社の祭事に今でも使われている「琴板」（箱の上板をバチで叩いて音を鳴らす打楽器）に大きさや形がよく似ており、古代の楽器の一種であったとも考えられています。

ふんどうがた どせいひん どうけんがたせつけん
分銅形土製品や銅剣形石剣が出土
 かめだ
亀田遺跡（揖保郡太子町）

太子町亀田遺跡で顔の描かれた分銅形土製品や銅剣をまねて作った石剣がみつかりました。

亀田遺跡は弥生時代から平安時代の集落の跡で、建設省が進める姫路西バイパスの建設に先立ち、平成4年度から発掘調査を進めています。

これまでの発掘調査で、弥生時代の竪穴住居跡が25棟みつかり、当地域でも有数の大きな集落であったことがわかりました。出土した多量の遺物の中に分銅形土製品と銅剣形石剣がありました。

分銅形土製品は、秤に使う分銅に形が似ているところから名付けられた焼き物で、岡山県を中心とする地域によく見られます。中ほどで半分に割れていましたが、本来は8cmぐらいの大きさと思われます。表面には盛り上がった眉に、目と口が線で刻まれ、鼻の部分には粘土が剥がれた跡が残っています。また裏側にはノコギリの歯や渦巻のような模様があり、赤い色が塗られていました。



分銅形土製品



銅剣形石剣

銅剣形石剣は、青銅製の剣をまねたものです。表面は丁寧に磨かれていますが、刃の部分が折れ、柄を取り付ける根元だけが残っていました。本来は20cmほどの長さと考えられます。このような石剣は、近畿地方特有の遺物ですが、実際に刃物として使われたのではないようです。これらの道具はお祭りなどの特別な場面で使われたと考えられています。

この亀田遺跡は近畿地方の西端にあたり、今の岡山県にあたる吉備地方の影響がうかがえます。いわば、東西の文化の接点といってもよいでしょう。

ここだけの遺物のお話

ふん どう がた ど せい ひん
分銅形土製品

分銅形土製品は、岡山県から広島県を中心とした弥生時代の遺跡で見つかっています。兵庫県では現在のところ19の遺跡から33点が出土していますが、ほとんどが西播磨地方にかたより、当時、岡山地方と交流があったことを示しています。

兵庫県内でこれまでに出土したものは、櫛や棒を突き刺してつけた模様で縁どりを飾るものがほとんどで、はっきりと顔を描いたものは、今のところ亀田遺跡の例だけです。また裏に模様があるのも大変珍しいものです。半分に折れているのはわざと壊したためとも考えられます。

この土製品は、集落の中で他の遺物に混じって出てくるので、個人や家族のまじないやお守りに使われたと言われています。集落全体のお祭りに関わった青銅器が特別な扱いを受けたのとまったく対照的です。

窯跡から人形（ひとがた）が出土

しらさわ
白沢 5 号窯跡（加古川市）

山陽自動車道の建設が予定されている加古川市上荘町で全国的に珍しい陶器の人形が見つかりました。調査された白沢 5 号窯跡は、奈良時代の初め（約1300年前）頃に須恵器を焼くために築かれた窯跡で、杯・壺・甕などの容器や円面硯と呼ばれる硯を焼いていました。

人形は高さが約13cmで、次のような特徴があります。

頭には笠と思われる薄い円板を載せています。この円板には楕円形の穴があいており、そこから髪の毛の一部が突き出しています。髪は頭上に高く二つに束ねており、唐風の髪形を真似た双髻を表しているようです。

顔にはへらの先で目と眉毛を描いています。鼻は高く作り出し、鼻の穴まで表現しています。口は突き刺した穴で表現しています。耳は見当たりませんが、髪の毛を盛り上げたように表現しているので、髪の下に隠れているのかもしれません。

顔から胴の部分にかけては、粘土を棒状に丸めて作っています。腕は胴とは別個に作り、胴の側



白沢窯跡群の全景（左側が 5 号窯跡）

面に貼り付けています。両腕とも手の部分が欠けていますが、腕の開き具合から考えて、何かを持っていた可能性があります。左手の付け根の部分と腰の部分は帯状に白くなっており、この部分に何らかの装飾品が付いていたのかもしれません。

足も腕と同様に別個に作って胴体に貼り付けたため、右足は欠落しています。左の足は裾が広がっていて、裳か袴の裾のように見えますが、人形を安定させるための工夫なのかもしれません。

さて、この人形は一体何に使ったものなのでしょうか。土製の人形は今までも全国各地で発見されており、お祭りやまじないに関係したものであることがわかっています。ただし、陶製の人形は

出土例が4～5例しかなく、すべて奈良時代以降のものですが、用途はよくわかりません。また、形の上でも、髪が突き抜けた笠または帽子をかぶった人物像はこれまで例がありませんでした。断定はできませんが、この人形が何をかたどったものかを考えてみましょう。

一つは髻と思われる髪形から、貴族の女性をかたどったものの可能性があります。かぶっている笠は市女笠の祖形にあたるものかもしれません。

もう一つの考え方は、かぶっているものを帽子とみて、正倉院御物に見られる楽人の表現や伎楽面の「呉女」に類似した表現があることから、芸能に関係した人物を表したものかもしれません。いずれにせよこの人形が奈良時代の風俗を私たちに伝えてくれる貴重な資料であることは確かです。



写真10 白沢 5 号窯跡出土の人形

整理作業の現場に潜入

発掘現場で出土した土器などの遺物は、その後どのように整理されているのでしょうか。そこで、今回は埋蔵文化財調査事務所での整理作業の様子を訪ねてみました。

ネーミング

☆出土した土器はていねいに水洗いした後、一点一点に記号を書き込みます。後で迷子にならないようにするわけです。

○ずいぶん小さな字で書くんですね？

☆大きすぎると目立ちすぎて見苦しくなりますし、反対に小さすぎると読めません。読みやすさが大事なんですよ。



接合・復元

○すごい土器の量ですね。

☆これでも、ほんの一部ですよ。当事務所で保管している土器の総量は整理箱で3万5千箱にのぼります。

☆土器の破片を広げて、くっつけていきます。

○ジグソーパズルのようなものだとよくいわれますが、実際のところどうですか？

☆ジグソーパズルだと平面的ですし、必ず完成しますが、土器はそう簡単にはいきません。足りないところは石膏を入れます。

○根気のいる仕事ですね。





実測

☆遺物をよく観察して精密な図を描きます。

○細かいところまで描くんですね。

☆土器をどのように作ったのかわかるように図に表現するんです。

トレース・レイアウト

☆実測した遺物や、現地の調査の成果を発掘調査報告書として印刷するための製図をします。



保存処理

☆出土品の中には、金属や木でできたものがあって、そのままにしておくと錆びたり、腐ったり、干からびてしまいます。これらには、化学的な保存処理を施して永久的に保存できるようにします。



金属器の保存処理

○まるで錆のかたまりのようですね。

☆ええ、X線写真を見ながら根気よく錆を落としていくのです。

☆耳飾りの金メッキがこんなにピッカピカになりました。

平成5年度現地説明会実施一覧（兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所実施分）

遺 跡 名	所 在 地	説明会実施日	参加者数	内 容
東武庫遺跡	尼崎市	平成5・6・26	50人	弥生時代の方形周溝墓跡
白沢窯跡群	加古川市	平成5・8・1	120人	奈良時代の須恵器窯跡2基
宝林寺北遺跡	龍野市	平成5・7・31	200人	鎌倉～室町時代の村落跡
亀田遺跡	揖保郡太子町	平成5・11・3	250人	弥生～平安時代の集落跡
下西山遺跡	三田市	平成5・11・13	30人	飛鳥時代の竪穴住居跡と鍛冶遺構
塩壺西遺跡	津名郡淡路町	平成5・11・23	110人	明石海峡を望む弥生時代の集落跡
七日市遺跡	氷上郡春日町	平成5・12・19	400人	弥生時代の集落と円形周溝墓
袴狭遺跡	出石郡出石町	平成6・2・26	250人	古墳時代の箱型木製品

現地説明会について

当事務所では、発掘調査した遺跡の現地説明会や展示会、講演会などを開催し、調査成果を公開しています。

現地説明会では、住居跡などの見学が出来るように調査地内を公開するほか、出土した土器・石器などを展示・解説します。

現地説明会を開催する場所や日時は、新聞・テレビなどの報道機関を通してお知らせしています。詳しくは、当事務所までお問い合わせください。

この他、毎年秋には、埋蔵文化財特別展にあわせて講演会、解説会を当事務所で行っておりますので、ぜひご参加下さい。



▲亀田遺跡の現地説明会

編集後記

今号は平成5年度に発掘調査した遺跡のなかから、絵画や彫刻に関連したものを特集してみました。昨年度は、貴重な資料がたて続けに発見されましたので、なかなか興味深い内容になったと思います。▷6・7ページで紹介した整理作業のような仕事は、あまり目に触れる機会がないと思います。これからも調査にかかわるいろいろな仕事を、順次掲載していきます。▷今号から誌面をA4版に刷新しました。文字を大きく読みやすくするとともに、大きく迫力のある写真が掲載できます。今後ともより良い誌面作りを心がけたいと考えておりますので、皆様方のご意見をぜひお聞かせ下さい。



6教P2-004A4